群教セ	G09-02
	令3.278集
	英語－中

目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話すことができる生徒の育成

――対話を継続・発展させる方法についての気付きを促すICTを活用した指導の工夫――

特別研修員　飯田　麻衣子

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

学習指導要領では、「話すこと」の目標として「即興」という言葉が初めて使われている。「話すこと」が「発表」と「やり取り」に分けられ、それぞれに「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする」という目標設定がなされた。

多くの生徒は、リテリングやプレゼンテーション等のパフォーマンステストにおいて、原稿の作成から発表まで意欲的に取り組む。しかし、課題以外の質問や対話になると、日本語が出てしまったり、躊躇したりしてしまう。そこで、ICT 端末を活用し、発表ややり取りに必要な情報収集や提示、相互評価や記録動画を活用した振り返り等の場面で活用することで、対話を継続・発展させる方法についての気付きを促し、目的や場面、状況に合わせて即興的に話そうとする生徒を育成することができると考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

1　研究構想図

２　授業改善に向けた手立て

目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話すことができる生徒の育成のために、単元を通して以下の手立てを講じる。

手立て１：即興で応じることに慣れるための帯活動

①身近な話題について簡単な英語で伝える生徒同士のミニプレゼン

・ICT端末上に整理した写真や絵を提示しながら身近な話題についての発表及びやり取りを行う

②ALTによるモデル動画を視聴しながら英語で自然に応じるやり取りの練習

・個々の学習状況に応じて繰り返し再生やスロー再生の機能を活用してやり取りに慣れ親しむ

手立て２：ICT端末活用による生徒同士の相互評価を通した言語活動の修正・改善の効率化

①即興性の向上を促す相互評価

・双方向授業支援アプリのアンケート機能を活用して生徒が評価シートを作成する

・評価項目は発表・やり取りの具体的な頑張りを認め、意欲を高める２つの項目から選択する

②客観的評価に基づく活動の改善

・活動形態のユニットを「プレゼン発表者（１名）」「聞き手（２名）」「発表・やり取りの評価者（３名）」で構成し役割を変えながら繰り返す

・評価された発表者・聞き手は次の活動の改善のため自己の目標を明確化し、評価者は自己の発表・やり取りの参考にする

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　「つかむ」及び「追究する」過程までに手立て１を継続的に取り入れたことで、生徒は「自分が話したい内容に関心をもってもらう」という相手意識をもって、自然なやり取りを積み重ねることができた。また、ALT による単元のゴールとなる活動のモデル動画を自分のペースで視聴して練習すると、ネイティブスピーカー特有の話し方が身に付き、目的や場面、状況に合わせて即興的に話すことへのハードルが低くなった。

○　手立て２を取り入れたことで、対話の継続・発展に何が必要なのか生徒はリアルタイムで客観的に気付くことができた。具体的な評価規準と複数の目から見た妥当な評価を得て、自己の課題が可視化され､活動の修正・改善に主体的に取り組んだ結果、発表ややり取りにおける自己の目標を達成することができた。また、評価している生徒自身が対話を継続・発展させるための方法に気付き、自身の活動に活かすという効果もあり、相互評価による学び合いが生徒の即興性の向上に寄与した。

２　課題

○　発表時間とやり取りの時間を合わせると、英語の発話時間は６分程度になる。聞いたり評価したりすることを通して積極的に活動する時間はあったが、英語を使った総活動時間が少なくなってしまった。授業中に相互評価を取り入れることのメリットを活かしながら、生徒主体の学習活動の時間を減らさない工夫が必要である。

実践例

１　単元名　　「Unit5 A Legacy for Peace」（第３学年・２学期）

２　本単元について

本単元は、非暴力を基本とした独立抵抗運動の最高指導者であるガンディーを扱っている。信念を貫き、人々のために尽力し続けた人物の功績について知ることは、生徒にとって平和や人権の大切さを考える貴重な契機となる。また、言語材料としては、人物や物事についての情報をさらに付け加えるための用法として関係代名詞が扱われている。生徒にとって難易度の高い文法事項であるが、世界に影響をもたらした人物や憧れの人物について説明をする中で、必要に応じて取り入れさせ、定着を図る。ICT 端末を活用しながら人物について発表したり、それについて自由にやり取りをしたりすることで、生徒たちの自己表現力や対話を続ける意欲を高める。目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話そうとする生徒の育成をすることにつながり、本単元を学習する価値は大きい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	以下のア、イに示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通してウに示す資質・能力を育成する。 ア　既習の表現を用いて、自分の憧れの人物についてALTに即興的に話すことができる。（知識及び技能） イ　ALTに自分の憧れの人物について関心をもってもらえるように、調べた情報や自分の伝えたいことを整理しながら発表したり、その内容についてやり取りしたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等） ウ　ALTに自分の憧れの人物について関心をもってもらえるように、調べた情報や自分の伝えたいことを整理しながら発表したり、その内容についてやり取りしたりしようとしている。（学びに向かう力、人間性等）
評価規準	(1)　ALTに自分の憧れの人物を紹介するために、名詞を修飾する文と関係代名詞を用いた文の構造を理解するとともに、その人についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 (2)　ALTに自分の憧れの人物について関心をもってもらえるように、その人についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 (3)　ALTに自分の憧れの人物について関心をもってもらえるように、その人についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第１時 第２時	・教科書を読み、ガンディーの生い立ちについて、既習の英語で表現する。 ・人や物について詳しく伝える。
追究する	第３時 ～ ５時	・教科書の内容を通してガンディーの多大なる功績について概要を捉える。 ・教科書の内容を参考に憧れの人物の発表に必要な情報をまとめ、英語で話す。 ・ALTの発表を聞き、質問したいことを整理し、尋ねる。
まとめる	第６時 ～ ８時	・憧れの人物の内容と写真を使用して、聞き手の質問に答えながら即興的に話す。 ・録画動画や友達からの評価を参考に、憧れの人物について発表をしたり自由にやり取りをしたりする。 ・憧れの人物についてALTと即興的に話す。

３　具体化した手立てについて

目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話すことができるようにするために、以下のように手立てを具体化した。

手立て１：即興で応じることに慣れるための帯活動（単元の第１時～第４時まで）

①双方向授業支援アプリのスライド機能を活用したオリンピック・パラリンピックの競技や選手に関するミニプレゼン

・整理した写真や絵を提示しながら、具体的な内容を順序立てて、聞き手を意識した話し方の練習やプレゼン内容に関するやり取りの練習をする

②ALTによる憧れの人物についてのプレゼン動画の視聴

・画面に向かってリアクションや質問をしたり、やり取りで役立つことを学級内でアプリを活用して共有したりしながら語彙や表現の幅を増やす

手立て２：ICT端末活用による生徒同士の相互評価を通した活動の修正・改善の効率化

①「憧れの人物」のプレゼン発表者と聞き手とのやり取りの様子を撮影して記録すると同時に活動の即興性の向上を促す評価を送受信

・双方向授業支援アプリで話すこと（発表・やり取り）の評価項目を設定して活用する

・自動集計された評価シートには、複数人からの評価結果が棒グラフで表示される

②記録動画と受けた評価を基に客観的に自己課題を発見し、目標を明確にして活動を改善

・前時の評価や自分の動画を振り返り、項目「今日、特に気を付けたい所」を設定して追加する

・最後に再び相互評価を行い、前時との変容を感じながら本時の取組の振り返りを行う

４　授業の実際

(1)　事前の活動（前時）

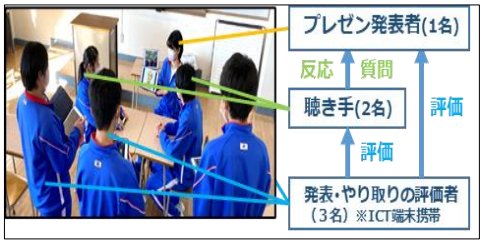

図１　前時の発表とやり取り

プレゼン発表者１名と聞き手２名をパフォーマー、発表・やり取りの評価者３名をオブザーバーとして「The person I respect」の発表とやり取りを行った。パフォーマーの中の１名が発表者になり、ICT 端末上の双方向授業支援アプリで整理した写真や絵を提示しながら２分間話した（図１）。その後の２分間はやり取りの場面で、聞き手の２人が質問や感想を投げかけたり、それに対して発表者が応じたりした。時々対話が止まってしまうことはあったが、帯活動で行ったミニプレゼンでのやり取りの経験が粘り強く即興的に話す姿につながった。ICT 端末を使って録画した動画とオブザーバーによる評価を生徒同士で送り合った。

(2)　本時の活動

冒頭に前時のパフォーマンス動画を視聴し、受けた評価と共に振り返った（図２）。前時の発表とやり取りの動画を見ることで、客観的に自身の評価と本時の目標設定ができた。生徒は評価シートに「今日、特に気を付けたい所」を追加入力してから本時の発表とやり取りの活動に臨んだ。評価シートの様子から、生徒は活動の改善により高い意識をもっていたようである。（図３）。

図２　前時の録画動画をICT端末で視聴

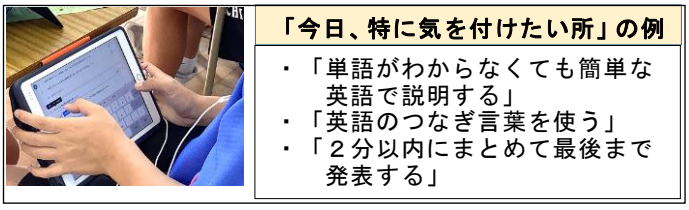

図３　評価項目（今日、特に気を付けたい所）の入力

前時と同様の流れで活動を開始した（図４）。ALT には生徒同士のやり取りが一通り終わった後に補足的にリアクションや質問等をするよう依頼し、生徒たちがネイティブと発展的にやり取りできるよう演出した（図５）。オブザーバーの３人は、発表とやり取りの両方（合わせて４分間）の様子を観察し、評価を入力した。

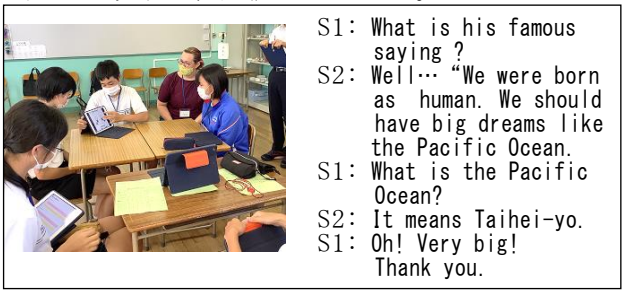

図４　本時の発表とやり取り

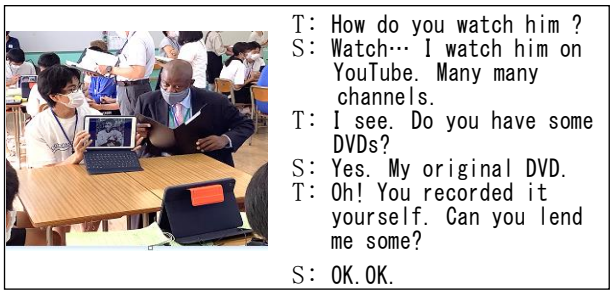

図５　ALTとのやり取り

評価をする際、オブザーバーには発表者の「今日、特に気を付けたい所」の項目を確認させた。発表者は、目標の達成具合や、前時との変容を、仲間からの評価によって確認していた。パフォーマー３人の発表終了後、オブザーバーと役割を交代し、同様の流れで進めた。全員の発表とやり取

りの後、オブザーバーから送られてきた評価シートと録画動画を確認し、本時の振り返りを行った。自己評価においては、タイピング技能の実態を考慮して、紙の評価シートに記入させた（図６）。

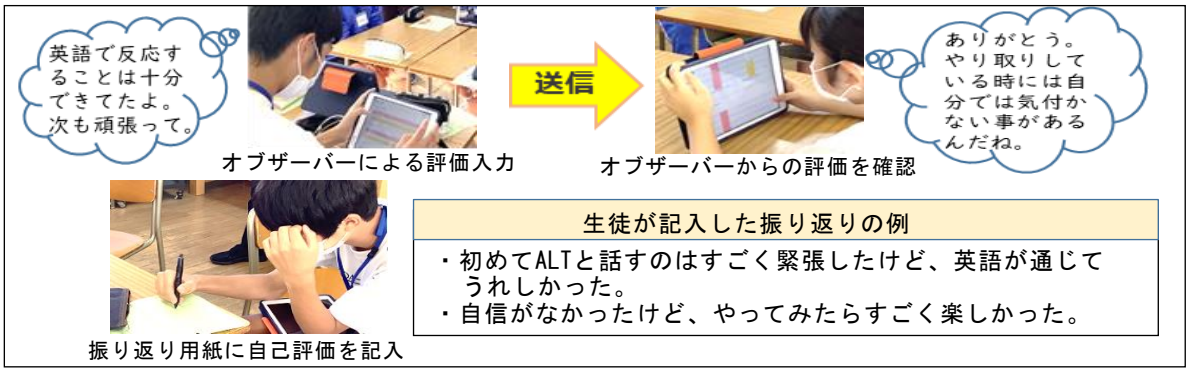

図６　相互評価と振り返りの流れ

(3)　事後の活動

ALT とのパフォーマンステストとして、憧れの人物について発表後、内容について自由にやり取りを行った。生徒は前時のパフォーマンス動画と相互評価を基にして、修正と改善の方向性を決めて臨んだ。（図７）。事前の生徒同士のやり取りでは想定できない質問もあったが、臨機応変に「Maybe…」や「I'm not sure…」等で会話をつなぎながら対応していた。やり取りにおいて日本語を使うことはなく、粘り強く英語で話すことができていた。

図７　ALTとのパフォーマンステスト

５　考察

ICT端末の導入から約５か月経ち、双方向授業支援アプリの使用に習熟した生徒は、情報整理や提示、録画やアンケートの送受信など、多くの機能を短時間で正確に使うことができるようになった。単元前半のミニプレゼンの準備段階で、授業の時期が２学期の始めということもあり、夏季休業中の課題としてテーマを「自分にとって印象的な東京オリンピック・パラリンピックの競技や選手」と設定した。生徒は自分事として内容を整え発表することができ、一方聞き手の側にも主体性が見られ、発表後の自然な反応や意欲的な質問につながった。対話を継続・発展させるために必要だと感じることは、生徒の実態によって異なる。ミニプレゼンやALTのモデル動画に擬似的に反応を繰り返すトレーニングを行い、対話を継続・発展させる方法についての気付きを促す相互評価を行うことで即興性の向上を促進したと考える。授業の振り返りにおいて「具体的な評価をもらうと次の目標がはっきりして上達することができた」「簡単な英語でも話し続けて通じると自信になる」という生徒の記述が見られたことから、自分の憬れの人物についての発表に対し、関心をもってくれた故の質問や、相槌や聞き返しなどの反応を受けることは次の活動へのモチベーションにつながる。また、時間を置かずに即興性の向上を促す評価を複数受け取ることは、自分に必要な改善のヒントを多様な視点から獲得する得難い機会であり、パフォーマンス向上への意欲に好影響をもたらした。前時のやり取りで描いていた自分の姿に到達できなかった生徒も、他者からの評価と自身の動画から気付きを得て、本時では「Maybe…」や「I'm not sure…」等を添えて対話を継続している姿が見られた。

ゴールであるALTとのパフォーマンステストでは、憧れの人物に関する発表の内容から派生して、「将来の夢」や「夢に近付くために普段行っていること」等の不測の内容が質問されたが、つなぎ言葉を使いながら内容を考え、多くの生徒がなんとか答えることができていた。これまでの評価の過程や動画でのパフォーマンスを見つめ直し、テストに臨んだため、自身の課題を意識し、より良い成長につながった。今回の実践で、試行錯誤しながらファシリテーターに徹する機会を得て、生徒同士が互いに認め合い学び合う姿を目の当たりにした。教師主導の授業から脱却し、生徒が自ら目的や場面、状況に合わせて英語でコミュニケーションできる環境を演出したい。

〈参考〉 生徒のパフォーマンス向上を促す評価項目の例（本単元の実践例より）

１【発表】目線・表情など

◎ アイコンタクトやジェスチャーを使って、相手に伝えようとしていた。

○ アイコンタクトかジェスチャーを使って、相手に伝えようとしていた。

２【発表】聞きやすさ

◎ はっきりとした声と滑らかな話し方で、説明がよく伝わっていた。

○ はっきりとした声で、説明が相手に伝わっていた。

３【発表】スライド

◎ テーマに合った写真や絵をタイミングよく使って、発表の助けになった。

○ スライドを使っていて、発表の助けになった。

４【発表】英語の使用

◎ 最後まで日本語を使わず英語でやり遂げた。

○ 少し日本語が入ったが、なんとか英語を話し続けようとしていた。

５【発表】英語の表現

◎ これまで学習した表現や関係代名詞の表現を使いながら発表していた。

○ これまで学習した英語を使いながら発表していた。

６【発表】情報量

◎ 憧れの人物について具体的に説明していて、高い関心がもてた。

○ 憧れの人物について説明していて、関心がもてた。

７【発表】説得力

◎ なぜその人物に憧れるのか理由を付けて説明していた。

○ なぜその人物に憧れるのかを説明していた。

８【発表】文章のまとまり

◎ 文と文とのつながりがあり、ストーリーが分かりやすかった。

○ 文と文とのつながりはあまりなかったが、ストーリーが分かった。

９【やり取り：聞き手】聞き手のやり取り力／質問・意見

◎ 発表に関する質問をしたり、感想を言ったりしながら何往復かやり取りを続けていた。

○ 発表に関する質問をしたり、感想を言ったりしていた。

10【やり取り：発表者】質問への答え方

◎ 発表に関する質問に対して、詳しく英語で答えて聞き手を納得させていた。

○ 発表に関する質問に対して、答えていた。

11【やり取り：お互いに】聞き返し・確認

◎ 相手に対して聞き返したり確認したりして意味のあるやり取りをしていた。

○ 相手に対してなんとか反応していた。

12【やり取り：お互いに】相づち・共感・同意

◎ 会話の流れや内容を理解して相づちや共感・同意をして意味のあるやり取りができていた。

○ 会話の流れや内容を理解しているが、少し機械的なやり取りになっていた。

13【やり取り：お互いに】自然な反応

◎ 相手の発言に対して準備をしなくてもその場で自然に反応していた。

○ 発言に対してこれまでの練習を思い出しながらなんとか反応していた。

14 今日、特に気を付けたい所　※受けた評価と記録動画の振り返りを基に被評価者が自身で設定

（例：相手のどんな投げかけにも臨機応変に英語で反応する）

◎ すごい！目標達成！

○ 達成のために頑張っていたね！